11月

カトリック麹町教会

magis

マジス　＝　「より、もっと、さらに」

2026年度教会テーマ

ひとつになろう　キリストのうちに　～ともに歩む教会へ～
Journeying Together as One Community to Jesus

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない

援助マリア修道会　シスター　荒井邦子



「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしくわたしを正しい道に導かれる」（詩編23：1～3）

私は昨年の9月よりシスター杉原法子の後を継いで入門講座を担当しています。何故途中の9月からと思われるでしょう。派遣を目の前にして、両膝が脆弱性骨折を起こし歩けなくなってしまったのです。それでどうしても人工膝関節置換手術を受けなければならなくなり、教会にも多大なご迷惑をかけることになってしまいました。しかしそれも寛大に受け入れて頂き、良い医師にも恵まれ、術後のかなり厳しいリハビリも何とか乗り越えることができ、姉妹の助けもあって、無事に9月から開講できるようになりました。これらすべてを導いて下さったのは神さまで、まさに良い羊飼いでした。その恵みに深く感謝しています。

私はこれまでの30年近くを福山にある学校教育の現場で働き、またその後の10年程は修道会のために働いておりました。ですから今こうして聖イグナチオ教会に派遣され、入門講座を通して信仰を求めておられる方々との出会いや、ミサや他の行事などで奉仕されている方々との出会いは喜びであり、とても新鮮なものに映っています。改めて自分の生き方を問い直されている感じがしております。冒頭に記した詩編23の言葉は、私を支え導いてくれるものです。

この詩篇で思い出す人がいます。スウェーデンのゴスペルシンガーのレーナ・マリア・ヨハンソンさんです。彼女は生まれつき両腕がなく、左脚も右脚の半分までしかない障害を持っていました。彼女の母親は信仰の篤い人で、この子がこうした身体で生まれてきたことには何か意味がある。神さまは彼女に何か特別な使命を与えて下さっているに違いないと考えていました。そこで、彼女を人前に連れ出すことを躊躇しませんでした。好奇な目で見る人もいましたが、優しい人も沢山いました。そして、彼女がしたいと思うことは何でもさせるようにしていたそうです。ですから、彼女は好奇心いっぱいの明るい活発な子どもとして育っていきました。歌うことが大好きで、教会の聖歌隊に入って活躍していました。水泳も小さい時からコーチについて習い、大人になってソウルパラリンピックに選手として出場し、背泳4位・自由形5位などの入賞を果たした実力の持ち主でもありました。音楽に目覚めていった彼女は、後に音楽大学で学び、ゴスペルシンガーとしての道を切り開いていきます。世界を飛び回るシンガーとして活躍し、日本にも何度か来られ、あちこちでリサイタルを開いたこともありました。私たちは彼女の生き方から、人間に与えられた可能性の広さ、深さを教えられます。彼女は言っています。「障害があるということは不自由なことも一杯あります。できるようになるためには人一倍努力もいります。でも、それは決して不幸せなことではありません」。彼女の生きる力の源はこの詩編23にありました。どんな状況にあっても夢と希望を捨てず、歩み続ける力を私たちも願い求めていきたいですね。

教会報 MAGIS 11月号

† アルペ神父が遺したもの　P2～3
† ロヨラハウス紹介　P4～5
† 司祭叙階おめでとうございます！ ニティン・リズボン・コエリョ神父　P6
† Family of St.Ignatius ～スペイン語圏から～　P7

【待降節の共同祈願】

主の降誕を待ち望む私たちが、
捕らわれている人に解放を、
圧迫されている人への自由を、
世界の教会の人とともに
祈っていくことができますように

【11 月の共同祈願】

死者の月にあたり祈ります
地下のクリプタで眠る方々が
神のみもとで永遠の幸福にあずかっておられますように
そして、天上の世界、地上の世界がつながって、
家族の健康、世界の平和のために
祈ることができますように

アルペ神父が遺したもの

聖イグナチオ教会の活動グループ「アルペ神父の列聖を祈る会」では、ペドロ・アルペ師の生涯や霊性を学び、私たち信徒も言葉と行いによって証しができるようにとの思いで、アルペ師を知る方による黙想会や講演会を行っています。今回は2026年7月18日に行われた講話を抜粋、編集してご紹介します。

Part I

光と影、そして希望

聖イグナチオ教会助任司祭
サトルニノ・オチョア神父

母への贈りもの

私はスペインのバスク地方、ビルバオという街で生まれ、「ベゴニャの聖母の教会」で洗礼を授かりました。アルペ師も同じ街の出身で、教会も同じです。

私が6歳の時、1945年に広島に原爆が投下され、長束修練院の院長だったアルペ師は被爆者約150名を看護し、ほとんどの命を救いました。この話は私の住んでいた街にも伝わり、師は街の有名人でした。

私がアルペ師と初めて会ったのは、イエズス会に入って哲学を勉強していた時です。「日本に行きたい」と言うと、励ましてくれました。

カナダでの第三修練を終え、ローマで黙想の期間を過ごしていた時のことも思い出に残っています。アルペ師と食事をした後、部屋に伺うと、「あなたのお母さんに」とサイン入りの写真をくださいました。そこには母の名前も入っていました。前もって調べてあったのでしょう。母は亡くなるまでその写真を大切にしていました。

直面した数々の困難

アルペ師は数々の要職に就きましたが、ほとんどの場合、難しい問題が山積する場に派遣され、苦労していたように思います。そうした点にも目を向けてみてください。

アルペ師がイエズス会に入会したのは1927年のことです。4年後、当時のスペイン政府は宗教団体の活動を禁じる法律を作り、イエズス会に解散を命令。そのためアルペ師はドイツに逃れ、その後アメリカへ渡り、そこで日本派遣を命じられて1938年に来日しました。後年、師は難民支援に尽力しましたが、その背景には母国を追われた時に味わった苦労があったかもしれません。

1958年、イエズス会日本管区の初代管区長となったアルペ師は、「日本管区を国際管区に」という目標を掲げました。当時の日本は金銭的にも人材面でも支援を必要としていたのです。師は世界中のイエズス会に呼びかけ、多くの会員がそれに応えて日本宣教を志しました。師の特徴のひとつはこのように高い理想を掲げ、それに向けて前進する点にあると言えます。

私が来日した時、日本管区には26か国のイエズス会員がいました。非常に理想的な姿です。しかし言葉や文化、習慣や食事、さまざまな違いのある人々がともに働くのは難しいことです。摩擦が生じ、帰国した人も少なくありませんでした。

1960年代は世界的に社会や文化が変革した時代でした。1962年から65年には第二バチカン公会議が開かれ、カトリック教会も大きな変化を遂げました。そのさなかの65年、イエズス会総長に選ばれたのがアルペ師でした。当時、イエズス会は分裂の危機に瀕していました。保守的な会員と進歩的な会員の間で意見の相異があり、特に保守的傾向の強い会員の中にはアルペ師の方針に表立って異を唱える人もいたからです。そのため師は教皇パウロ六世から注意を受け、当初考えていた計画を変更せざるを得なかったといいます。

師が晩年に背負った十字架も非常に重かったと思います。10年間寝たきりで、話すこともできなかったのです。世界中を飛び回って宣教し、すばらしい講演をされた

師にとってどれほど辛い日々だったか。しかし師は「以前にもまして、自分が御手の中にあることがわかる。これは私が若い時から望んできたもの」というメッセージを全イエズス会員に送られました。

聖アウグスティヌスに次のような言葉があります。「希望が持てない時に希望をもって期待する」。これこそアルペ神父の姿を現しているように感じます。

Part2

「なぜと問うなかれ」

聖イグナチオ教会信徒

山口教会での出会い

私の両親は1936年、聖イグナチオ教会ができた年に結婚式をあげました。第一号だったそうです。生後すぐに受洗した私は毎週、両親に連れられてミサにあずかりました。

ほどなく第二次世界大戦が勃発。私たち家族は上智大学でドイツ語を教えていた父を残し、山口に疎開しました。アルペ師とは山口教会で出会い、私と二人の妹、そして末の弟は、師から初聖体をいただきました。

終戦を迎え、東京に戻って数年経ったある日突然

家の長兄が我が家を訪れました　一家とも山口教会で親交があったのです。長兄の用向きは、「私はイエズス会に入り司祭を目指している。お宅の三姉妹の誰かに弟と結婚してほしい」とのことでした。それを聞いた母は簡単に、「では長女の　を」と受けてしまいました。

私は当時、女子カルメル会への入会が決まっていました。すぐに指導司祭に相談に行くと、「一晩考えて、明朝ミサの後に来るように」とのご指示でした。そして翌朝、指導司祭から「あなたの召し出しは結婚し、子孫を増やすことです。子どもたちに信仰をつないでください。あなたの望みと神のお望みが一致しないこともあります」と言われました。私は返す言葉が出ず、「仰せのとおりに」と言うのがやっとでした。

一年後、私たちはアルペ師、当教会の主任司祭だったヘルマン・ホイヴェルス師、叙階直後の長兄

の共同司式で結婚しました。結婚式でのアルペ師のお説教は、「神への絶対的信頼。信仰に基づく楽観的生活。思いわずらうことなかれ」という短い言葉でしたが、私たち夫婦の道しるべとなりました。

師は披露宴でもお言葉をくださいました。それは「なぜと問うなかれ」でした。「神への絶対的な信頼があれば、結婚生活で起きるすべてのことに対して、神に問いはいらない」と言われました。

苦しみの中での支え

結婚生活ではやはり、さまざまなことが起きました。最大のできごとは長男の死です。長男が盲腸になった時、当教会の信徒だった医師が執刀してくださいましたが、麻酔のショックであっという間に亡くなったのです。周りから「医療ミスだから訴えた方がいい」と言われ、私たち夫婦は1年間苦しみました。しかし、担当医も苦しんでいるに違いないと考え、「なぜと問うなかれ」に至りました。

次に起きたのが夫の大病です。1982年2月、千代田区永田町にあったホテルニュージャパンで火災が発生。33人が亡くなりました。都市防災が専門だった夫は鎮火後、国の依頼で現場検証に入りました。その際にガスで肺を蝕（むしば）まれ、ある日、意識を失い緊急入院。肺がん末期との診断で集中治療室に入りました。私は祈り続けました。しかし「何としても助けてください」という祈りは不思議に出ず、ひたすら「み旨のままに」と祈りました。

5か月後、夫は奇跡的に回復。仕事に復帰することができました。それは医学的にまれな例として、主治医が『生還』という本に記しています。

私たち夫婦は半年後、ルイス・カンガス師が企画されたローマ巡礼に参加しました。約2年前に倒れて病床にあったアルペ師のお見舞いも兼ねていました。銀婚の年にあたっていた私たちはイエズス会総本部で、師の前で銀婚の誓いをたてました。師は病気のため言葉が不自由でしたが、誓いの言葉が終わるやいなや

の名前を呼ばれたのです。傍（かたわ）らにいた人々の驚きの声が部屋に響いたことが、今でも忘れられません。

私にとってアルペ師の言葉は人生の支えです。皆さまにも「なぜと問うなかれ」をお贈りしたく思います。

イエズス会員　最後のミッション
～ロヨラハウス紹介

イエズス会ロヨラハウス館長　山岡三治神父

「ロヨラハウス」は練馬区上石神井に設立されたイエズス会高齢会員のための修道院です。敷地内には「イエズス会 黙想の家」や「霊性センターせせらぎ」といった関連施設が隣接し、静寂で祈りに適した環境が広がっています。ロヨラハウスはその一角に、介護を必要とする高齢会員を支える拠点として設立されました。同修道院長の山岡神父様より、その様子をご寄稿いただきました。

ロヨラハウス設立

ロヨラハウスはイエズス会の司祭・ブラザーのための私的介護施設です。設立されてから、今年で40年になります。今日に至るまで、百数十名のイエズス会員がロヨラハウスから帰天しました。創立期はドイツ人宣教師が大半で、その後スペイン人、ついで多国籍の外国人、そして今は三分の二が日本人司祭とブラザーです。現在の16名のうち9名は90歳以上で、102歳、100歳もいます。

最後のミッション

ロヨラハウスに入る会員の任務内容は学校や教会、社会使徒職などの職務とは異なり、「ロヨラハウスで教会のため、イエズス会のために祈る」という任務です。それは最後のミッションです。今まで神からの使命だと確信して心身を捧げてきた職務や周囲の人々から切り離されるからです。

しかし、会員はもちろん奉仕の精神をロヨラハウスでも継続しています。車椅子を後ろから押して一緒に食堂に行ったり、ベッドの兄弟を訪問したりしています。目が弱い兄弟のために、本を朗読してあげる人もいます。庭の花壇を綺麗にして、ベッドの会員が部屋から眺めることができるようにしています。ロヨラハウスの生活の見えるところや見えないところに、兄弟愛を発見できることは大きな慰めです。

ロヨラハウスの会員には、他の老人たちと同様な試練もあります。それは、自分が老いてゆくにつれてできないことが増え、これからは人のためではなく、奉仕される側になることですし、身近な人たちと死別することです。ロヨラハウスでは、一緒に宣教に苦労した「戦友たち」がひとり、ふたりと天国に旅立っていくのを見ることは、天国で再び会えるとはいえ、寂しさはひとしおです。亡くなる前には病者の秘跡を行いますが、これはまさしく昔ながらの「終油の秘跡」であり、病室には他の兄弟たちが集まり一緒に、祈ります。

天国への門出です。

ロヨラハウスでの生活

ロヨラハウスの会員たちは50年以上の長いつきあいですから、性格もお互いよく知っています。会話の多くが繰り返しの昔話や、笑い話になってしまうのですが、戦中戦後の日本やイエズス会日本管区の歴史を想起し、背後の神の働きを知って感動する時でもあります。なかには筆者が若い頃、大変お世話になった方もおられますから、一種の恩返しです。

日常のスケジュールは、午前6時すぎには聖堂に入り、個人の祈りをして、7時からミサ、朝食、午前中はシャワーや風呂です。正午に昼食。メニューは一人ひとり違います。

昼寝をした後、ある会員は友人知人たちと面会します。遠隔地で来られない人のためにリモートで講座を開く神父もいますし、月に一回くらい信徒グループのために、ロヨラハウス・エクステンション（向かいの修道院内）でミサを捧げる会員もいます。

そして一日のしめくくりの晩の祈りがあり、夕食、そしてしばらくして就寝です。夜間もヘルパーさんが見回ってくれています。時には夜中の急病もあり、筆者は一緒に救急車で病院に行きます。

面会について

コロナの猛威はおおむね収束したようですが、ノロウイルスやインフルエンザなどの感染力が強いものに注意が必要です。ロヨラハウスではコロナ感染者はゼロでしたが、ノロウイルスに半数の会員が一気にかかった時があり冷や汗をかきました。一気に体力が落ちるからです。

ロヨラハウスの面会について、病院や特殊な施設と同様に厳しく条件をつけなくてはならない第一の理由はここにありますが、その他、個人の体調や、面会室の使用状況も考慮して、お断りしなくてはならないことがあります。イエズス会員はみな人が大好きですから、面会を喜びすぎて体調を崩すこともあります。それゆえ面会希望の場合は、前もって電話で予約することが必要です。

健康法

ロヨラハウスは規則正しい生活と各自に合った食事が配膳されるからでしょうか、入居前よりも健康をある程度取り戻す方が多いです。年齢は戻せませんが（笑）

筆者は彼らから健康法についても学んでいます。彼らはどのような工夫をして、ここまで長寿を迎えることができたのでしょうか。

よく観察してみますと、一般的には肥満、偏食、野菜嫌い、甘党、運動不足、長時間の昼寝、長時間の椅子の生活は体によくないと言われますが、長寿でそのままの人もおりますから一般の健康法も絶対ではないようです。

祈り

祈りはやはり中心です。ミサや共同の祈りのほか、聖堂で静かにひとり祈る姿はとても印象的です。何名かは交代でミサ司式を担当しますが、彼らの数分の説教には力がこもっています。最後に残す言葉だからでしょうか。仲間とよく話し、昔をよく思い出し、笑うことも健康維持に役立っているようです。

私たちは祈りによって結ばれていますから、それぞれの場で、いつも朗らかに歩んでいきたいものだと思います。





▲パーティ（奏楽はウィリアム・カリー上智大学元学長）



▲ロヨラハウス入口



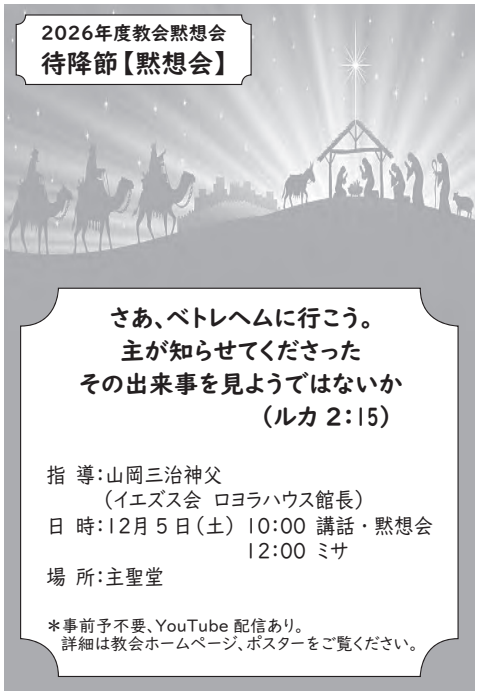
▲ロヨラハウス全景



▲カンガス神父 100 歳のミサ



▲ルイス・カンガス神父 100 歳祝い





▲聖堂・聖櫃前でひとり祈る



▲車椅子を押して、一緒に食堂へ



▲緑あふれる庭と窓辺のマリア像を自室から眺める



▲復活徹夜祭ミサ

叙階式・初ミサ

9月12日(土)14時から主聖堂で菊地功枢機卿の主司式のもと、ニティン・リズボン・コエリョ助祭の司祭叙階式が執り行われました。


▲叙階式

10月4日(日)の10時ミサでは日本語による初ミサが行われました。

日本語の初ミサでは、「ぶどう園と農夫」のたとえ(マタイ21：33～43)について、「おじいさんと孫がいて、おじいさんは自分の畑を孫に貸していました。『道具も水も全部使っていいよ。好きな野菜を育てなさい。ただ、収穫の時は家族のために少しだけ持ってきておくれ』。初めはうまくいきました。しかし次の年、孫は採れた野菜を全部売って、自分のお金にしてしまいました。おじいさんが『私の分は?』と聞くと、孫は怒って言いました。『これは僕が汗を流して育てたんだ。全部僕のものだ』。孫は大切なことを忘れていました。彼は持ち主ではなく、畑を預かっていただけでした。

今日の福音に出ているぶどう園の農夫たちも同じでした。主人の召使いや大切な息子まで殺してしまいました。このぶどう園とは何のことでしょうか。それは、私たちの人生です。私たちの命、家族、仕事、健康、時間、これらはすべて私たちがゼロから作ったものではありません。神さまが愛をもって、私たちに預けてくださった恵みです。

しかし、私たちはときどき、孫や農夫たちのようになってしまいます。私たちの心から感謝が消えてしまいます。そして、不満や争いや不安が生まれます。神さまが私たちに求めている良い実とは何でしょうか。それは真実、正しさ、清らかさ、そして愛です。私たちが、すべては神さまからの贈り物だと思い出す時、心に平和が戻ります。神さまからいただいた時間、才能、そして愛を、周りの人や神さまにお返ししていきましょう」と話されました。

初ミサ終了後は、主聖堂前の広場で新司祭による祝福が行われ、多くの人が列を作りました。

皆さま、どうぞ新司祭のためにお祈りください。



▲日本語初ミサ

生涯をかけた学び
ニティン・リズボン・コエリョ神父

皆さま、はじめまして。ニティン・コエリョと申します。私はインドのカルナータカ管区でイエズス会に入会しました。インドでの修練期などの後、パリへ派遣されて哲学を学びました。帰国後はカルナータカ管区のムンドゴド・ミッションの中の学校で1年間活動し、2020年のコロナ禍の時期に日本へ来ました。来日後は2年間日本語を学び、六甲教会で日本の教会活動を経験しました。その後、日本カトリック神学院で2年間、さらに上智大学で神学を学び、9月12日に司祭に叙階されました。

私の詳しい経歴については、ブログ(英文)のQRコードをご覧ください。

https://frnithinlisboncoelhosj.blogspot.com/

現在の活動

現在は上智大学大学院にて神学の修士課程に励みつつ、週末は高円寺教会や聖イグナチオ教会で土曜・日曜のミサの司式や奉仕をお手伝いさせていただいております。今後は司牧の学びを深めながら、都合がつく際には、ゆるしの秘跡の奉仕にも積極的に携わっていく予定です。学業と教会共同体での司牧活動を両立させながら、日々恵みのうちに歩んでいます。

メッセージ

叙階式の日に、共同体で最長老の安藤勇神父様からいただいた「司祭職に卒業はない」という言葉を、今も深く心に刻んでいます。司祭としての歩みは生涯をかけた学びであり、人々の喜びや痛みに寄り添い続ける道だと感じています。日々のミサや秘跡、出会いを通して神のいつくしみを分かち合えるよう努めてまいります。まだまだ未熟な私ですが、皆さまとともに祈り、生涯をかけて成長していければ幸いです。どうぞ、温かくお導きください。


▲叙階式の日、ご両親と一緒に

Family of St.Ignatius

～スペイン語圏から～

秋深まる季節、皆さまいかがお過ごしでしょうか。セントロ・ロヨラは、スペイン語圏の皆さまが集い支え合うコミュニティーです。「 ひとつになろう キリストのうちに ～ともに歩む教会へ～」という今年のテーマを胸に、平日は洗礼、初聖体、堅信、結婚の教理講座のほか、子どもと大人のためのスペイン語教室も開催しています。

毎週日曜日は、ミサとロザリオの祈りに加えて、週替わりの決まった活動もあります。第 1 日曜日はガラルダ神父の聖書クラス、第 2 日曜日はコミュニティーミーティング、第 3 日曜日は霊的育成の勉強会、第 4 日曜日は聖体礼拝です。

9 月は台湾からの2人のシスター達をお招きし、「 ともにいのちの文化を築こう」をテーマに学びを深めました。さらに、教会の行事をサポートするための聖歌隊や伝統舞踊の練習も活発に行われており、教会内は活気に満ちています。言語や文化の違いを越えて、誰もが安心して過ごせる「 もうひとつの家族」を目指しています。

11 月と 12 月もさまざまな活動を予定しております。皆さまの賜物や能力を互いのためにいかし、ぜひご参加ください。いつでも皆さまを両手を広げて温かくお迎えいたします。

（シスター カタリナ・パディジャ 御聖体の宣教クララ修道会）

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

（10 月 1 日開催）

・11月より毎月第１主日ミサにおける信仰宣言は「ニケア・コンスタンチノープル信条」を唱えることにいたします。
・「教会史編纂室」を設立いたしました。2036年の教会創立100周年に向け、これまでの歴史を体系的に記録・保存し、次の世代へと確実に継承していくため、『麹町教会100年史』（仮称）制作事業を進めてまいります。
・今年度のクリスマスミサは、いずれも**事前予約不要**です。12月24日（木）の降誕祭前夜ミサ（日本語・英語）は、当日整理券を配布いたします。
詳細は教会ホームページ、ポスター、チラシなどでご確認ください。

【災害支援募金のご報告】

＊インドネシア地震支援募金（9/26・27 実施）
募金総額　773,727 円
震源地フローレス島で支援活動を行う修道会「聖心の布教姉妹会」へ送金いたしました。

＊ネパール土石流支援募金（10/10・11 実施）
募金総額　742,233円
カリタス・ジャパンを通してカリタス・ネパールへ送金いたしました。

皆さまからお預かりした募金は全額支援に充てております。温かいご支援に感謝いたします。

●2026年クリスマスバザーのお知らせ●

開催日：11月29日（日）　8:30ミサ終了後～15:30

国際色豊かな 17 グループの出展を予定しています。
献金は聖イグナチオ教会を通じ、フィリピン・ミンダナオ子ども図書館（MCL）などにお送りする予定です。
皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。
※ MCL とは貧困や紛争などによって厳しい環境にある子ども達を支援する団体です。
※出展申込みはすでに締め切りました。
※実行委員会では、バザー頒布用の献品は受付けていません。
個人の献品の教会宛寄付や郵送、当日の持ち込みはご遠慮ください。

クリスマスバザー実行委員会

●献血の報告●

9 月20日（日）に、5 回目となる日本赤十字社による献血を、ヨセフホールで行いました。はじめてお越しいただいた49名を含め、114名（前回101名）に来場いただき、目標の80名を超えてこれまでで一番多い97名（前回79名）から献血いただきました。献血にご協力くださった皆さまに感謝いたします。次回は来年 3 月 7 日（日）を予定していますので、ご参加をお待ちしています。

●財務報告●

9 月27日（日）「世界難民移住移動者の日の献金」1,761,472円は、日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられます。

11 月の典礼と行事

1　（日）　諸聖人の祭日	
2　（月）　死者の日	死者の日ミサ　7:00　12:00　18:00
6　（金）	初金曜日
8　（日）　年間第32主日	子どもとともにささげるミサと七五三祝福式　10:00
11　（水）	傾聴ルーム　11:15〜15:00　ヨセフホール 水曜ティーサロン　12:00 ミサ後 オルガンと祈り　19:00　主聖堂
15　（日）　年間第33主日	結婚感謝ミサ　10:00 ミサがわかるセミナー 13:00 ヨセフホール「感謝の典礼①」講師：アントニウス・フィルマンシャー神父 **聖書週間（15日〜22日）、ミャンマーデー・献金、貧しい人のための世界祈願日**
18　（水）	クリプタに安置され11月に命日を迎える方々のためのミサ　12:00 『社会問題とカトリック教会の考え　2026年度連続セミナー』　18:30 ヨセフホール 2026 環境と貧しい人々　「わたしはあなたを愛してる」　貧しい人々への愛について 「神は貧しい人々を選んでいる（第 2 章）」　　講師：竹内修一神父（上智大学神学部教授）
21　（土）	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座　15:00　ヨセフホール
22　（日）　王であるキリストの祭日	日曜サロン・ミニオリエンテーション（受け皿）　11:00 〜 12:30　ヨセフホール　**世界青年の日** **教会活動連絡会議　13:00　ヨセフホール**
24　（火）	**聖フランシスコ・ザビエルの取り次ぎを願う 9 日間の祈り（〜12月 2 日まで）**
25　（水）	傾聴ルーム　11:15〜15:00　ヨセフホール 水曜ティーサロン　12:00ミサ後
29　（日）　待降節第 1 主日	**クリスマスバザー**

『マジス』12月・1 月合併号は12月 6 日（日）発行予定です。　最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：髙祖　敏明
助任司祭：ボニー・ジェームス
　　グエン・タン・ニャー
　　サトルニノ・オチョア
　　柴田　潔
協力司祭：ハビエル・ガラルダ
　　グエン・ヴァン・テー
　　関根　悦雄
　　マヌエル・シルゴ
　　作道　宗三
神　学　生：アントニオ・マリオ・ダ・
　　コスタ・ソアレス
シスター：フロール・フロレセ
　　ジェスリン・ブエンディア
　　ディン・グェン・ゴック・
　　トゥエン
　　カタリナ・パディジャ

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間

【平日】主聖堂
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日】主聖堂
土曜 18:00/19:30（ベトナム語）
日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00（英語）/13:30（スペイン語）/
15:00（ベトナム語）

【土曜日】マリア聖堂
17:30（英語）

【月の第 1 日曜日】マリア聖堂
13:30（ポルトガル語）/16:00（ポーランド語）

【月の第 2・4 日曜日】マリア聖堂
16:30（インドネシア語）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒102 − 0083
千代田区麹町 6 − 5 − 1
TEL 03 − 3263 − 4584
FAX 03 − 3263 − 4585
http://www.ignatius.gr.jp

Linktree（リンクツリー）　音訳 Magis

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

＊ 本文中の役職名等は、寄稿もしくは取材時のものです。

カトリック麹町聖イグナチオ教会
2026クリスマスミサ

★子どもと家庭のクリスマスミサ
12月19日（土）　主聖堂15:00

★降誕祭前夜ミサ　12月24日（木）＊
主聖堂
【日本語】15:00 /17:00/19:00
【英語】21:00
上智大学10号館講堂
【ベトナム語】17:00/19:30

★主の降誕ミサ　12月25日（金）
主聖堂
【日本語】7:00/8:30/10:00/18:00
【英語】12:00
【スペイン語】13:30
【ベトナム語】15:00
マリア聖堂
【ポーランド語】15:00

※すべてのミサの予約は不要です





＊12月24日の降誕祭前夜ミサについての詳細は裏面をご覧ください。

クリスマスミサのお知らせ

✞　今年も皆さまとともに主のご降誕をお祝いできますことを心より嬉しく思います。
本年のクリスマスミサは以下の通り執り行います。

【ミサ日程】

12月19日（土）子どもと家庭のクリスマスミサ
- 15:00 ～

12月24日（木）降誕祭前夜ミサ
- 15:00 ～ **（整理券配布時刻 14:00）**
- 17:00 ～ **（整理券配布時刻 16:00）**
- 19:00 ～ **キャンドルサービス （整理券配布時刻 18:00）**
  ※配信あり
- 21:00 ～〔英語〕**（整理券配布時刻 19:15）**

12月25日（金）主の降誕ミサ
- 7:00 ～
- 8:30 ～
- 10:00 ～
- 12:00 ～〔英語〕
- 13:30 ～〔スペイン語〕
- 15:00 ～〔ベトナム語〕
- 18:00 ～

♪キャロリング♪
12/24 17:00～　各ミサ前後
12/25 12:00ミサ後

12月25日（金）
マリア聖堂
・15:00 ～〔ポーランド語〕

12月24日（木）
上智大学10号館講堂
・17:00 ～〔ベトナム語〕
・19:30 ～〔ベトナム語〕



【入場・定員について】

今年のミサはいずれも事前予約制ではありません。

ただし12/24降誕祭前夜ミサ（日本語・英語）につきましては、**当日整理券を配布いたします。**
（日本語ミサはミサ開始1時間前より、英語ミサはミサ開始1時間45分前より配布予定）

①**主聖堂**　定員900名（座席に着席できない場合もあります）
②**マリア聖堂**　定員180名（配信ミサ・拝領あり）
③［英語ミサのみ］　**ヨセフホール**定員200名（配信ミサ・拝領あり）
※各聖堂が定員に達した場合は、**主聖堂前広場**にてミサにあずかることができます。
あらかじめご了承ください。

【高齢者・車椅子利用等配慮を要する方の事前登録について】

ご高齢の方（80歳以上）および車椅子利用や移動や着席に配慮を必要とされる方に限り、
12/24の**15:00**および**17:00**のミサの事前登録を承ります。
・介助が必要な方は、**介助者 1 名のみ**同時にご登録いただけます
・所定のエリアにご着席いただきます（座席指定はできません）

⇨⇨事前登録受付は 12/1（火）～ 13（日）事務室横の用紙にご記入の上、所定の箱にご提出ください。なお、代理登録も可能です。（登録順は問いません）。